

日本マスターズ（富山県）に出場

西湘Wings FC

西湘クラブが設立30周年を迎えるにあたり、現役を退いたメンバーがかなりの人数になってきたため、健康増進およびもう一度花を咲かせようということで、平成13年に新しいチームを創設し、神奈川県サッカー協会（現在、神奈川県サッカーリーグ）の四十雀リーグ3部に登録しました。平成15年に2部リーグ昇格後、平成16年には1部リーグへ昇格。リーグ2位、県議長杯やチャンピオンズカップ優勝という成績を収めました。平成17年は目標であった1部リーグ優勝など年度を誇いだ4冠を達成

し、日本スポーツマスターズ全国大会（富山県）への出場も果たしました。

日本スポーツマスターズは財日本体育協会や財日本サッカー協会が主催する40歳以上のスポーツ大会で、サッカー、テニス、バレーボール、バスケットなど12競技で構成されています。サッカーは都道府県予選会で代表となり、地方（関東）予選会を勝ち抜いたチームが本大会（全国）へ出場し日本を競う大会です。

西湘Wingsは平成16年も関東予選会へ進み、山梨マスターズ（選抜）に勝利しましたが、高麗

SC（東京）に惜敗し、全国への道を閉ざされました（出場した高麗SCが全国優勝）。そこで、必勝を期して望んだ17年は県予選会を順調に勝ち抜き、埼玉県熊谷で開催された関東予選会では、初戦の群馬代表（選抜）戦こそ、2対2の同点でPKでの勝利となりましたが、続く強豪の埼玉代表（選抜）戦で3対1の勝利を収め、念願の全国大会への出場を果たしました。単独チームが強豪の選抜チームを破った勝因は、出場しない選手がサポーターを率先して行うなど、チーム一丸となった勝利であったといえます。

全国大会は9月23日から26日に富山県で開催されました。開催前日の監督会議には釜本JFA副会長が出席し、シニアになってもサッカーを継続している全チームに対してエールを贈って頂きました。試合の結果についてですが、1次リーグ初戦の福井県選抜は、個々の技量、スピードが上回り開始早々から着々と得点を重ね大勝しました。ショットパスが綺麗に回り、ゲームメーカーに良いボールが入る、さらにはスペースへのボール、クサビも有効で満足のいくゲームだったと思います。第2戦の京都選抜は開始直後にFKから頭で綺麗に決められましたが、直後に相手DFのOWNゴールで

追いつくも、相手の激しいプレーにベースがつかめず、虚をつくミドルシュートを決められて前半を折り返しました。1対1で負けないう等を確認して、後半に臨み、徐々に運動量で上回るとパスがつかまるようになり、右からの突破でPKを得て同点に追いつきました。その後は押し込みながらも決定機を作り出せずに引き分けました。この時点で勝率トップとなり、最終戦の相手である羊が丘（北海道）が京都に大勝した相手であるため、決勝トーナメント進出を得た。失点差勝負で京都から奪うとの意気込みで、雨中（水溜り）の最終戦に挑みました。開始直後のCBの退場や主力ゲームメーカー等の負傷退場もあり、前半は一時リードするも追いつかれ、後半は雨の中の戦いに徹した相手の単純な気迫のプレーに、決勝進出のためには勝たなければならず攻め上がった裏をつかれて失点を重ねてしまいました、予想外の敗戦となってしまいました（結果、決勝トーナメントに進出した京都が準優勝）。

この悔しさをバネに、メンバーは全国に忘れてきたものを取り返そうと、今年度も県リーグ登録選手から22名の精鋭を選抜して、広島県で開催される全国大会への出場を目指して予選会に取り組んでいます。また、来年度からは生涯サッカーを実現すべく五十雀チームを立ち上げ、県シニアリーグ（五十雀）に参戦する予定です。こんなサッカー馬鹿の集まりのチームですが、応援して頂けたならば幸いです。

第25回 小田原カップ サッカー大会

高学年

- 優勝 美晴少年サッカークラブ
- 2位 荻野サッカー少年団
- 3位 下曽我

低学年

- 優勝 野庭キッカーズ
- 2位 千代豊川
- 3位 松田イレブン

第22回 戸田杯争奪 少年サッカー大会

- 優勝 浦和東選抜
- 2位 横須賀トレセン
- 3位 南足柄選抜

第2回 少年委員会 会長杯争奪戦

- 優勝 山王
- 2位 千代豊川A
- 3位 SSC



関東予選会結果

- 対 群馬県代表 2対2 (PK 5対4)
- 対 埼玉県代表 3対1

全国大会（一次リーグ）結果

- 対 福井県選抜 5対1
- 対 京都選抜 2対2
- 対 羊が丘オールディッカーズ 2対5